

「土壌管理のあり方に関する意見交換会（第2回）」議事概要

1 日 時：平成20年4月25日（金）13：30～17：00

2 場 所：農林水産省生産局第2会議室

3 出席者：別紙のとおり

4 概 要：

（1）たい肥の施用基準等の設定や減肥指導のあり方等について、意見交換を行った。概要は以下のとおり。

【たい肥の施用基準等の設定について】

たい肥の施用基準については、地力の維持・増進に配慮するとともに、資源の循環促進を図る観点から望ましい水準として設定することが適当。また、たい肥の施用上限値については、生産性等との調和を図りつつ、慣行栽培と比較して肥料成分による環境負荷を高めない水準として設定することが適当。その際、たい肥中の肥料成分のうち、窒素だけでなくリン酸やカリについても留意することが必要。

具体的な施用基準等は、主要作物別、黒ボク土・非黒ボク土別、暖地・寒地別に検討。

なお、国が示す施用基準等はあくまで標準的な目安として提示し、この考え方を参考としつつ、各都道府県が地域の実情に応じた施用基準等を設定することが重要。

【減肥指導について】

農業者が取り組みやすいよう減肥の基本的事項を示したものと、厳密な減肥の計算手法等など高度な事項を示したものに分けて、マニュアルの作成を引き続き検討。

【普通畑土壌の電気伝導度（EC）について】

各都道府県におけるECの設定状況等を参考に、生育障害等が発生しないよう一定の安全率を確保しつつ、改善目標値の見直しを引き続き検討。

【水田土壌の有効態りん酸含量について】

りん酸は、寒冷地では水稻の初期生育を確保する上で不可欠であり、一定量の施用は必要。このため、上限値を超える土壌については、農作物による収奪分のみを土壌に施用するという考え方を併せて示すことが必要。

（2）次回の意見交換会は、各委員からの意見等を基に具体的な基準値案を試算し、さらに議論することとなった。また、第2回と同様に、慎重な議論を行う必要があることから、非公開で行うこととなった。

- 以上 -

(別紙) 土壌管理のあり方に関する意見交換会(第2回)出席者

【委員】(五十音順)

板橋 直	独立行政法人農業環境技術研究所 物質循環研究領域 主任研究員
加藤 直人	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 資源循環・溶脱低減研究チーム長
金子 文宜	千葉県農林総合研究センター 生産環境部長
木村 武	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 中央農業総合研究センター 研究管理監(座長)
草場 敬	独立行政法人農業・食品産業技術総合研究機構 九州沖縄農業研究センター 土壌環境指標研究チーム長
郡司掛 則昭	熊本県農業研究センター 生産環境研究所 土壌肥料研究室 首席研究主幹兼室長
瀧 勝俊	愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 環境安全グループ 主任研究員
中辻 敏朗	北海道立中央農業試験場 環境保全部 土壌生態科長

【事務局】

福田 英明	生産局 農産振興課 環境保全型農業対策室長	ほか
-------	-----------------------	----